

2

第2章

福生市の地域福祉の現状と課題

1 福生市の地域福祉の現状

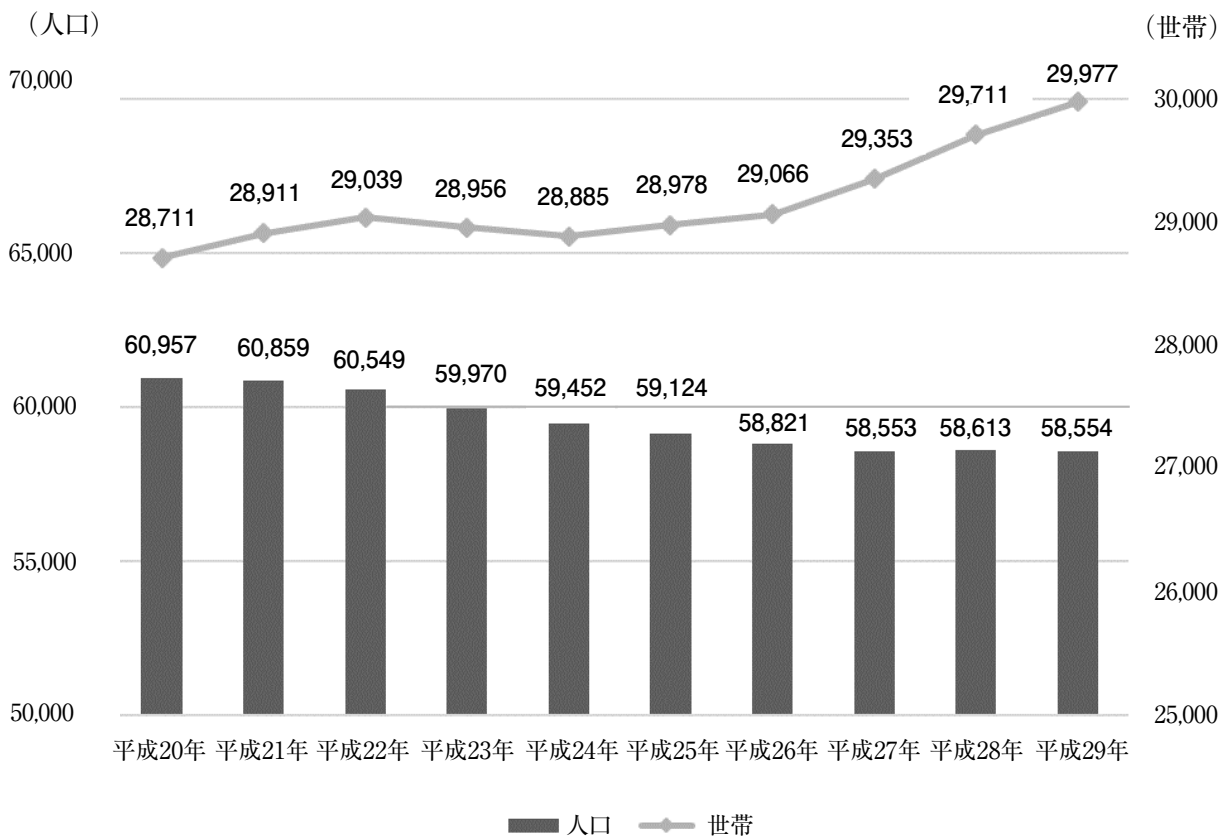
(1) 統計から見る現状

1) 人口と世帯の状況

① 人口と世帯の推移

福生市の住民基本台帳から人口と世帯の推移を見ると、人口は平成18年（2006年）以降毎年減少し、平成29年（2017年）には58,554人となっています。世帯数については逆に増加傾向で平成29年（2017年）には29,977世帯となっています。その結果、1世帯当たりの平均人員は平成20年（2008年）の2.12人から平成29年（2017年）の1.95人へと減少しています。

図1 人口と世帯の推移

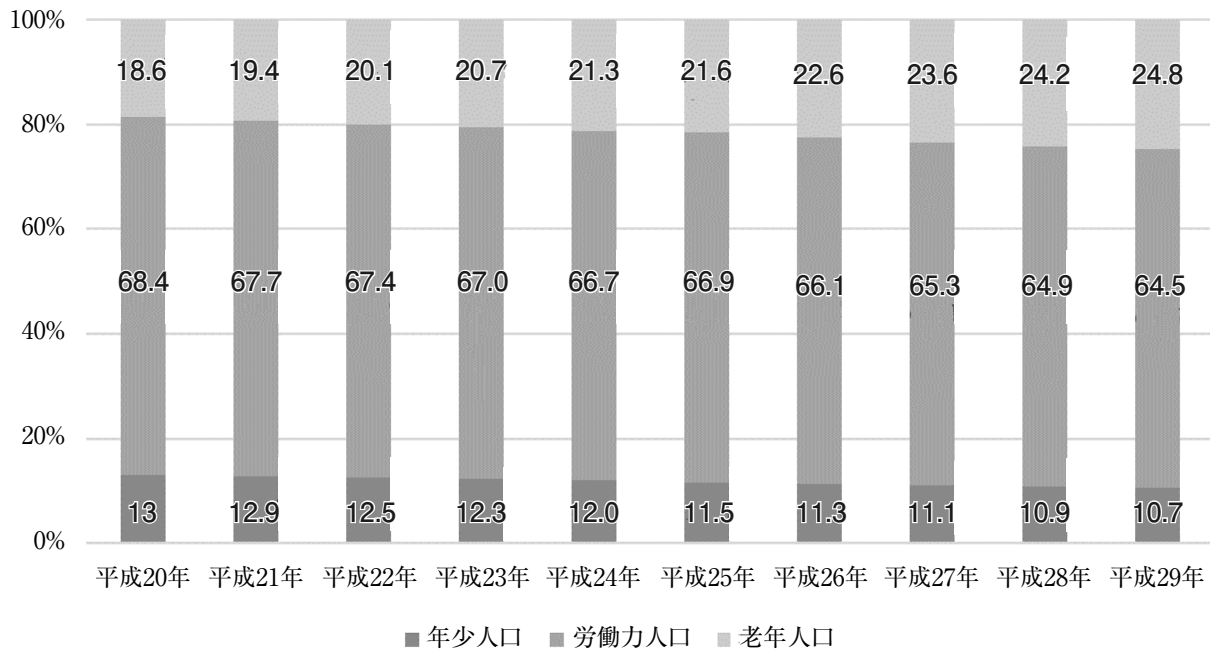


資料：福生市住民基本台帳（各年1月1日現在）

② 年齢3区分別人口構成比の推移

年齢3区分別人口の推移を見ると、平成20年（2008年）以降毎年少子・高齢化が進み、平成29年（2017年）1月には年少人口は13.0%から10.7%となる一方、老年人口は18.6%から24.7%へと増加しています。

図2 年齢3区分別人口構成比の推移



資料：福生市住民基本台帳（各年1月1日現在）

③ 外国人住民の状況

本市は総人口に占める外国人の割合が大きく、平成28年（2016年）4月1日現在で3,513人の外国人が登録しています。平成26年（2014年）は2,814人、平成27年（2015年）は3,237人でしたのでかなりの増加傾向にあります。

表1 外国人住民の主な状況

単位：人

国籍・地域	人数	国籍・地域	人数	国籍・地域	人数
中国	702	ブラジル	53	ミャンマー	4
ベトナム	833	インド	36	スリランカ	11
ネパール	477	ガーナ	29	インドネシア	17
フィリピン	373	朝鮮	27	パキスタン	15
ペルー	246	マレーシア	22	ボリビア	6
韓国	224	イラン	19	バングラデシュ	16
アメリカ	100	イタリア	8	ロシア	4
タイ	105	ギニア	29	その他・無国籍	57
台湾	95	ナイジェリア	5	合計	3,513

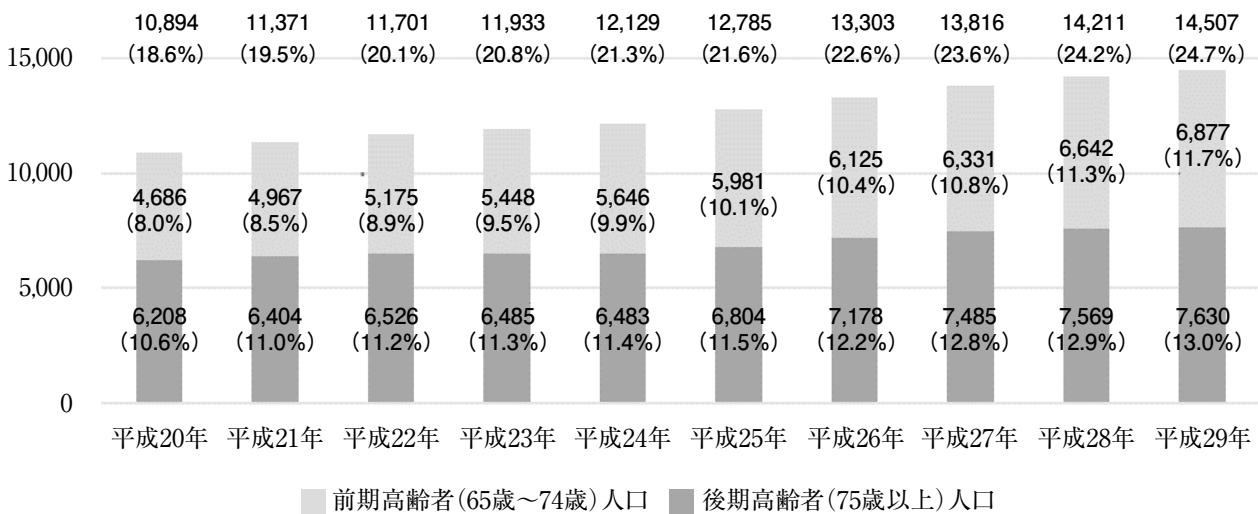
資料：福生市事務報告書（平成28年度）

2) 高齢者の状況

① 高齢者人口の推移

高齢者人口の推移を見ると、毎年増加傾向にあり、平成29年（2017年）1月には14,507人で、総人口の24.7%となっています。総人口に占める前期高齢者7,630人の割合は13.0%で、後期高齢者6,877人の割合は11.7%です

図3 高齢者人口の推移

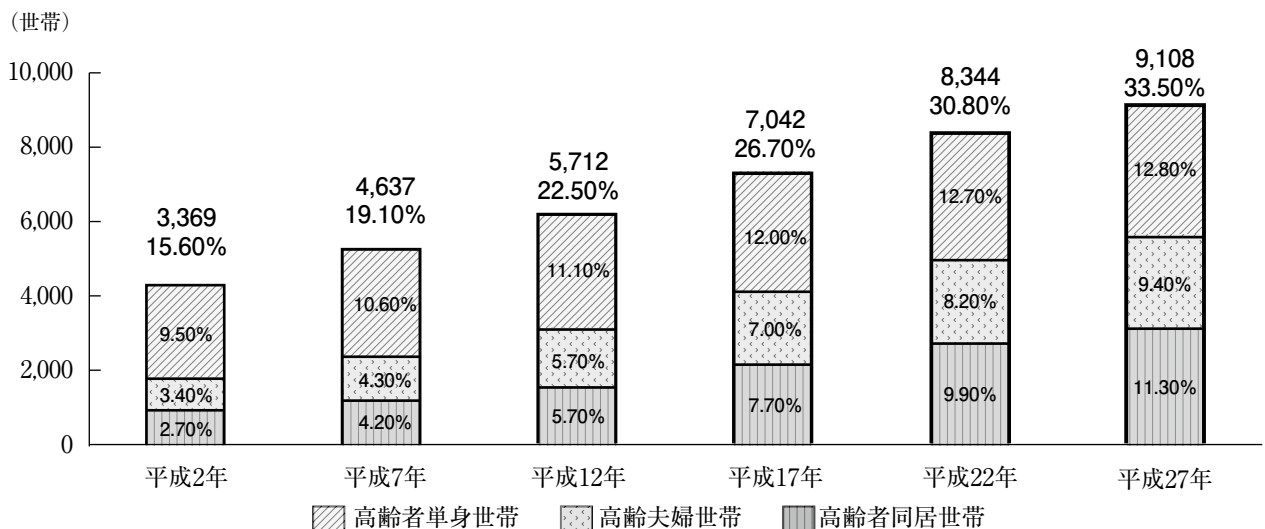


資料：福生市住民基本台帳（各年1月1日現在）

② 高齢者世帯数の推移

国勢調査による高齢者世帯数の推移を見ると、毎年増加し続け、平成27年（2015年）には9,108帯となっています。特に、高齢者単身世帯、高齢者夫婦世帯の伸びが大きくなっています。

図4 高齢者世帯の推移

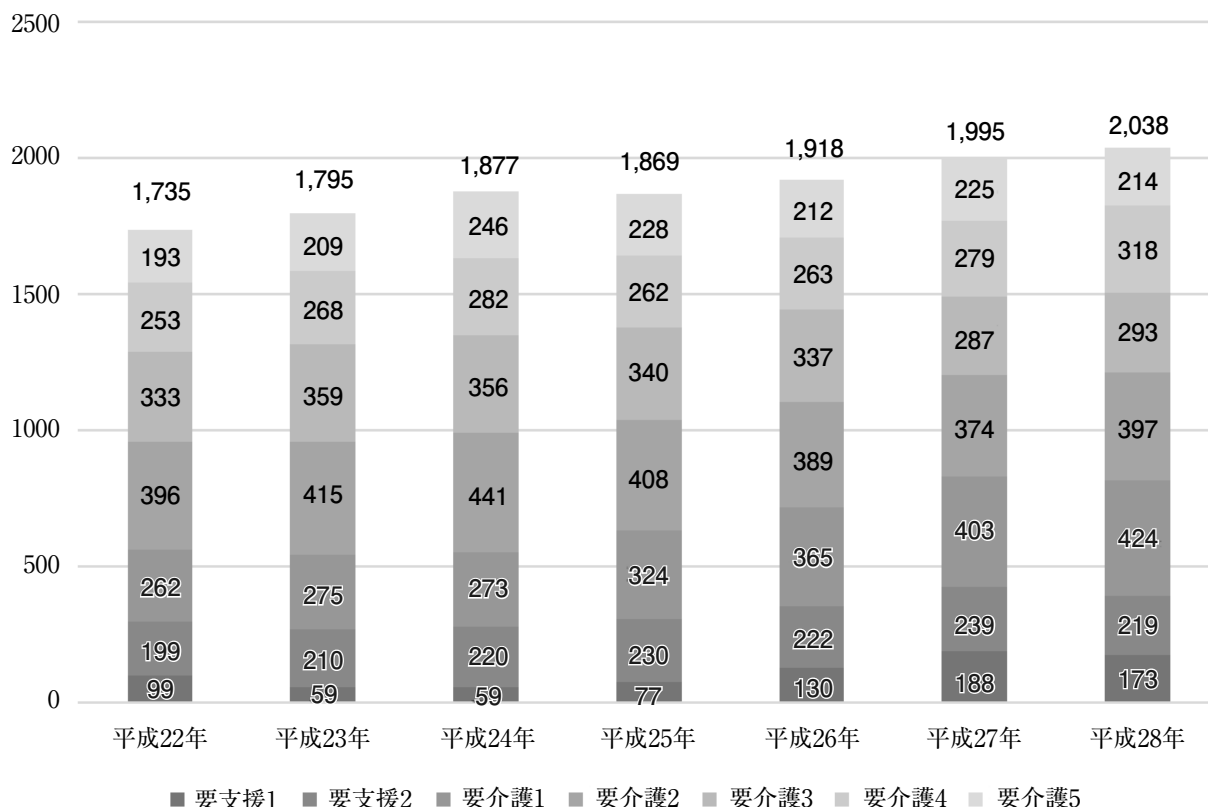


（資料：国勢調査）

③ 要介護認定者数の推移

要介護認定者数についても年々増加傾向にあり、平成22年度（2010年度）には1,735人であったものが、平成28年度（2016年度）には2,038人となっています。高齢者数の増加に伴い、近年は増加傾向にあります。

図5 要介護認定者の推移



資料：福生市事務報告書（各年度）

3) 障害のある人の状況

① 障害者手帳等所持者数の推移

身体障害者手帳登録者数、知的障害者「愛の手帳」登録者数の推移は表2のとおりです。身体障害者手帳所持者数はほぼ横ばいですが、「愛の手帳」登録者数は増加傾向にあります。

表2 身体障害者手帳登録者数、「愛の手帳」登録者数の推移（年号は平成）

単位：人

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
身体障害者手帳	1,734	1,733	1,731	1,749	1,763	1,779	1,763	1,757
「愛の手帳」	270	280	290	323	338	348	384	407

資料：福生市事務報告書（各年度）

② 障害別・等級別身体障害者（児）手帳登録者数

平成 28 年度（2016 年度）における障害別・等級別障害者（児）手帳登録者数は、肢体不自由が 848 人、視覚障害が 133 人、聴覚障害・言語障害が 200 人、内部障害が 576 人で、合計 1,757 人です。

表 3 障害別・等級別身体障害者（児）手帳登録者数

単位：人

等級	肢体不自由	視覚障害	聴覚障害 言語障害	内部障害	合計
1 級	181	36	0	380	597
2 級	175	49	48	5	277
3 級	156	10	41	56	263
4 級	246	6	50	135	437
5 級	58	23	0		81
6 級	32	9	61		102
合計	848	133	200	576	1757

資料：福生市事務報告書（平成 28 年度）

③ 知的障害者の状況

平成 28 年度（2016 年度）における知的障害者登録者数は、表 4 のとおりです。

表 4 程度別にみた知的障害者（愛の手帳）登録者数

単位：人

1 度（最重度）	2 度（重度）	3 度（中度）	4 度（軽度）	合計
11	86	97	213	407

資料：福生市事務報告書（平成 28 年度）

④ 精神障害者の状況

平成 28 年度（2016 年度）における精神障害者保健福祉手帳所持者数は、表 5 のとおりです。

表 5 等級別にみた精神障害者保健福祉手帳交付数

単位：人

1 級	2 級	3 級	合計
35	261	123	419

資料：福生市事務報告書（平成 28 年度）

4) ひとり親世帯の推移

児童育成手当支給状況から見た福生市のひとり親世帯の推移は減少傾向にあり、平成 28 年度（2016 年度）で 707 世帯、児童数 1,024 人です。

表6 ひとり親世帯の推移 (年号は平成)

単位：世帯、人

区 分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
世帯数	805	805	795	781	761	755	716	707
母子家庭	736	727	713	705	692	689	659	650
父子家庭	69	78	82	76	69	66	57	57
児 童 数	1,216	1,197	1,159	1,115	1,087	1,086	1,028	1,024

資料：福生市資料 (各年度3月末)

5) 生活困窮者自立支援事業

生活困窮者自立支援法に基づき、生活保護に至る前の段階の自立支援策の強化を図るため、生活困窮者に対し自立相談支援を実施するとともに、住宅確保給付金の支給、就職活動支援を社会福祉課で行っています。平成28年度(2016年度)の新規相談は161件でした。

表7 生活困窮者自立支援事業 (平成28年度)

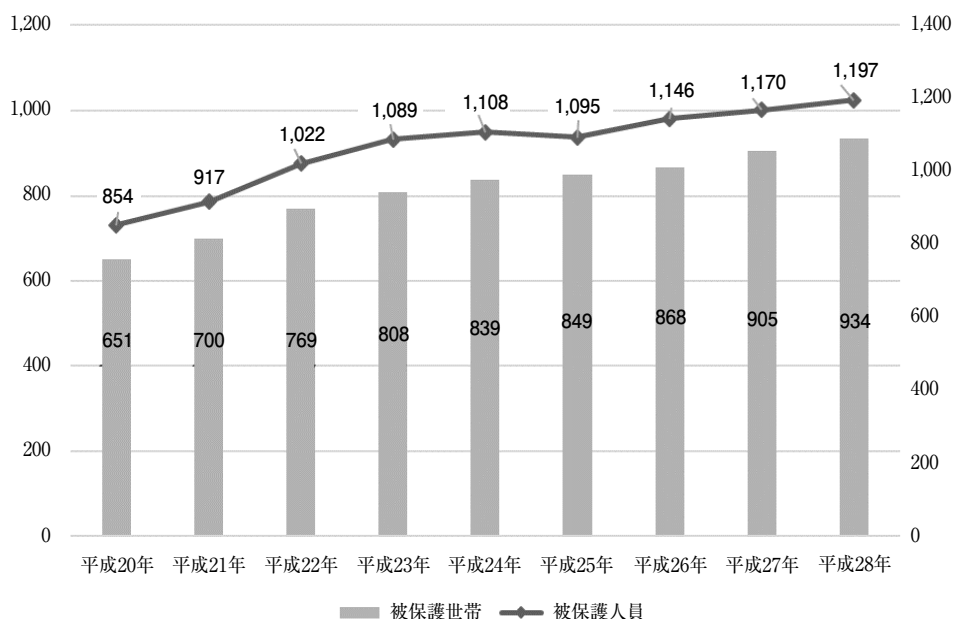
住居確保給付金支給決定 (件)	延べ支給月数	支給額 (円)	就労者数 (人)
23	72	3,796,800	9

資料：福生市事務報告書 (平成28年度)

6) 生活保護の状況

被保護人員及び被保護世帯ともに平成20年度(2008年度)以降増加傾向にあり、平成28年度(2016年度)で被保護世帯数が934世帯、被保護人員1,197人となっています。

図6 被保護人員及び被保護世帯の推移



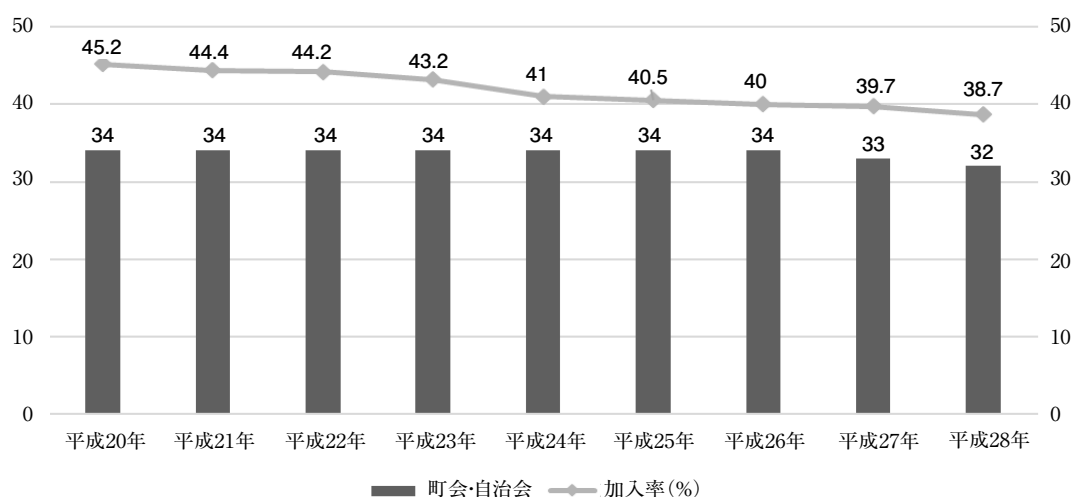
資料：福生市事務報告書 (各年度)

7) 市民活動の状況

① 町会・自治会数及び加入率の推移

市内の町会・自治会数は平成20年度（2008年度）以降34町会で推移してきましたが、町会の合併により平成27年度（2015年度）には33町会、28年度（2016年度）には32町会となっています。加入率は少しずつ低下し、平成28年度は38.7%となっています。

図7 町会・自治会数及び加入率の推移



資料：福生市資料（各年度10月現在）※平成28年4月から32町会

② ボランティア活動の状況

市内では福祉の分野をはじめ、青少年の育成、文化、スポーツ、防災・災害、外国人を対象とした活動など、様々な分野でボランティア活動が展開されています。「ふっさボランティア・市民活動センター」には、個人・団体が登録しています。

表8 ふっさボランティア・市民活動センター登録数（平成28年度）

単位：人

登録団体数	団体登録人数 (重複者含む)	個人登録人数 (重複者含む)	登録人数合計 (重複者含む)	登録者実数 (重複者含まず)
165 団体	4,215	1,228	5,443	4,707

資料：福生市社会福祉協議会資料

(2) アンケート調査・ヒアリング調査から見る現状

福生市が実施した「福生市高齢者・障害者等実態調査報告書」「福生市次世代育成支援行動計画策定に伴うニーズ調査結果報告書」等の市民ニーズを踏まえて、さらに福生市社会福祉協議会独自でも次のアンケート調査・ヒアリング調査を行いました。

1) 小地域福祉活動地区リーダーへのアンケート調査

小地域福祉活動は、概ね町会・自治会の地域を活動範囲とし、身近な地域で誰もが生きがいを持って安心して生活を送ることができる地域づくりを目指して、地域の様々な市民や団体が参加してお互いが助け合い支え合う市民が主体の福祉活動です。昭和 60 年（1985 年）に 3 町会から始まり、今では 19 の福祉地区が活動を行なっているもので、「第 3 期福生市地域福祉活動計画」において最も重要な活動の一つとして位置付けています。

今回、この福祉活動地区でリーダーとして活躍する市民の方、1 地区お一人に活動の現状・課題等についてアンケートをお願いしました。アンケート期間は平成 29 年（2017 年）8 月 30 日から 9 月 14 日の間で、11 人のリーダーから回答を得ました。その主な概要は次の通りです。

回答者の年齢は、60 歳代が 2 人、70 歳代が 3 人、80 歳代以上が 6 人でした。

所属福祉地区の活動者数は、10 人以下が 4 地区、10 人が 3 地区、20 人が 3 地区、30 人が 1 地区でした。

これまで取り組んできた活動は次のとおりで、多くの地域が一定の成果が上がったと評価しています。

- ・地域の防犯・防災 9 地区
- ・高齢者が安心して暮らせる環境・サービス 6 地区
- ・地域住民の連携を深める活動 9 地区
- ・健康に関する活動や相談 5 地区
- ・その他、生活環境、子ども、障害者、食事会やサロン活動

しかし福祉活動を続けていく上での課題や、活動を組織的に広げる為の課題も、次のように指摘されています。

- ・どこまで支援を行うのかの判断が難しい 6 地区
- ・個人情報保護により、必要な情報が得られない 5 地区
- ・町内会未加入の方や引っ越して来た方の把握が難しい 5 地区
- ・メンバーが高齢化してきている 10 地区
- ・リーダーや後継者が育たない 10 地区

また、これから優先的に取り組むべき事項としては、次のような指摘が上がってきています。

- ・市民の福祉意識を高める広報・啓発の強化 6 地区
- ・福祉活動を推進する人材育成 9 地区

これらの課題・指摘は、いずれも非常に大切なものであり、本計画の中でその取り組みが計画化されるべき重要な項目・施策です。詳細は参考資料をご覧ください。

2) 高齢者介護等に従事する専門職へのヒアリング調査

平成 29 年（2017 年）8 月 25 日、研修や事業者連絡会の機会を捉えて、福生市内で活動する高齢者介護のケアマネジャー、事業者を対象に、福生市における高齢者施策、高齢者の現状等についてヒアリングシートを配布し、38 名の方々から回答が寄せられました。

かなり多岐にわたるご意見が寄せられていますが、主なヒアリング項目ごとの特徴的なご意見は次のようです。

① 要介護（要支援）高齢者支援上の課題

- 他市（地方）から転入した高齢者、経済的弱者である高齢者、家族と疎遠である高齢者が多く、協力してもらえない人が少ない。
- 地域包括支援センターやケアマネジャーがいるなど、根本的な介護保険制度も知らない方が多い。困った時はこの場所に行けばいいなど、明確な知識を持っていない。

② ひとり暮らし高齢者もしくは高齢者のみ世帯への対応策

- 独居の高齢者が増える事で、目の届かないところで事故などが起きている。地域の見守り活動の強化が必要と思う。
- 地域包括、在宅介護支援センターなどで把握している。小地域福祉活動など民生委員、ボランティアさんなどの強力で、ある程度対応できていると思う。

③ 地域連携や医療連携の状況・課題

- 医療との連携は徐々にしやすくなっていると感じる。どの病院にも相談室がある。在宅医療をおこなってくれるクリニックも増えてきた。
- 地域での連携では、民生委員の方が情報を伝えてくれたり、町会長なども協力し、高齢者の見守り活動をしてくれる。

④ 高齢者支援の上で市社会福祉協議会に果たしてもらいたい役割

- 介護保険でできない部分をカバーしてくれるサービスを充実して欲しい。
- 小地域単位での見守り活動の充実。要介護にならない元気な段階での取り組み（生きがい活動、サークル活動）の充実。
- 民間同士をつなぐ役割。行政ではできないことを地域の力でやってほしい。

ヒアリングシートにはとてもまとめきれないほどの、本当にたくさんのご意見、提案などが記入されています。いずれも高齢者介護の現場で働く専門職のみなさんの貴重なご意見です。

3) 子育て支援に従事する専門職へのヒアリング調査

福生市の子育て支援では、保育園への入園待機児がゼロであることが大変大きな特徴です。そうした施策を中心に、平成 29 年（2017 年）8 月 25 日、福生市子ども家庭支援センターで、福生市の子育て支援施策の現状と課題等についてヒアリングを行い、積極的な意見をたくさんいただきました。

主な内容は次の通りです。

- 入所定員の拡大に努力した結果、保育園の待機児童がゼロになっている。
- 子育て広場が市の直営で、同じ建物に子ども家庭支援課を始め、子育ての機能が集中していることが効果を上げてきており、職員が見聞きした情報がすぐに市に上がってくるし、子どもの成長や課題の早期発見・早期対応に結びついている。
- 社会福祉協議会への期待としては、①「子育て広場」の直営は上述のように長所も大きいですが、行政側からのみ見ることにのみなってしまうので、地域の眼、社協の方からも見ていけるようになると良い。
- それには社協職員の専門職化が必要となる。
- ボランティアを活用した子育て支援も展開してもらいたいし、子育て部門をぜひ時期計画に

入れ込んでもらいたい。

- また、福生市が「子育てするならふっさ」を合言葉に推進する子育て支援施策の一つ「学童クラブの待機児ゼロ」の平成 27 年（2015 年）から 3 年連続の達成に大きく貢献している学童クラブ事業について、福生市社会福祉協議会運営の学童クラブの貢献が高いとの評価も聞かれました。

2 福生市の地域福祉の主な課題

こうした福生市の地域福祉の現状を踏まえ、第 4 期福生市地域福祉活動計画を策定するにあたっての福生市の地域福祉の主な課題を、次のように設定します。

(1) 小地域福祉地区活動の一層の充実・発展

福生市民の中で地域福祉活動の中核のひとつをなしているのは小地域福祉地区活動です。しかしアンケートにもあるように、小地域福祉地区活動の現状にはリーダーの高齢化や人手不足など多くの課題もあります。小地域福祉地区活動を、それぞれの市民の方々の顔の見える日常生活圏域での暮らしを支えるものとして豊かに展開するために、小地域福祉地区の町会・自治会の役員、民生委員・児童委員などの皆さんのみではなく、様々な方々が広く集まり、楽しく活動を展開できるものとして充実・発展させることが欠かせません。将来的には、市内各地域の小地域福祉地区活動が福生市の地域福祉活動の基盤を全体的に底上げし、福生市社協を各地区・各地域から支える存在としたいものです。

(2) 様々な連携とネットワークの強化

市内には東京都や福生市による法制度面からのフォーマルな福祉サービス、介護保険事業者や社会福祉法人による法制度に基づいたフォーマルな福祉サービスがあるほか、小地域福祉活動や様々なボランティア・NPO 法人活動などの、既成の法制度には基づかないインフォーマルなサービスが存在しています。しかし、ひとり暮らし高齢者や高齢者虐待の問題、障害を持つ市民の皆さんの暮らし、子どもの貧困、生活困窮などの課題の前に、それらのサービスが有効に連



ボランティア交流会にて

携されて展開されているかという点、現状では必ずしもそうではありません。様々な生活課題、複雑・複合化する生活課題を前にして、多職種・多機関の連携とネットワークの強化が急務の課題です。

(3) 地域福祉活動を広める人材の育成

小地域福祉活動を豊かにし、多職種・多機関の連携とネットワークをつくりあげていくには、そうした活動を担い、コーディネートしていく人材を育成していくことが極めて大切です。人材の育成にはいくつかの側面があります。

第一には、地域の住民の皆さんの中から地域福祉活動を担う人を育成しなければなりません。そのためには、地域の課題を人ごととしてではなく「我が事」として受け止めてもらえる形での活動・問題提起が大切です。

第二には、市内で福祉サービス事業に従事している多くの専門職の方々に研修と連携の場を提供していくことです。多職種・多機関の連携の場を作り出し、サービス従事者の働きやすさを確保していくことが、人材の力量を底上げしていきます。

第三には、そうした地域住民の皆さんの活動と専門職の皆さんの活動をつなぎ、ネットワーク化する機能＝コミュニティソーシャルワークの機能を持つ専門職（コミュニティソーシャルワーカー）を育成し、地域で活躍できる仕組みをつくり出していくことです。

(4) 全世代・全課題対応型総合相談の仕組み確立への検討

これからの福祉の方向は、これまでのような対象による属性別・縦割りの福祉ではなく、各法制度のすき間の問題も含めて、全ての地域住民を対象とし、全ての地域住民の幸せな暮らしを支えていく福祉です。それは、生活課題を抱える住民への個別支援とともに、そうした課題を生み出す地域社会の課題をも解決する地域支援を同時に展開する福祉であり、その根幹をなすのが地域福祉です。

その具体的な第一歩が「全世代・全課題対応型総合相談の仕組みの確立」です。その実現を目指して、福生市の次期地域福祉計画策定と本計画の次期地域福祉活動計画の一体的な策定に向けて、福生市や各方面と検討、調整を進めていきます。

